

宮城県産業教育審議会第2回専門委員会 会議概要

日 時 令和6年8月30日（木）午後2時から午後4時まで

場 所 県庁行政庁舎1204会議室

出席委員 佐藤（千）委員、成田委員、佐々木（道）委員、小泉委員、橋浦委員、太田委員、岩本委員、昆委員、高橋（彩）委員、小池委員、志羽久委員、佐々木委員
以上12名全員出席

県出席者 菊田高校教育課長
伊藤高校教育課総括課長補佐
池田高校教育課教育改革班長 他関係職員（事務局）

1 開 会

2 開会挨拶 菊田高校教育課 課長

3 報 告

(1) 宮城県産業教育審議会第1回専門委員会会議概要
(資料1)に基づき事務局より説明)

4 協 議 （議長：佐藤（千）委員）

(1) 第1回専門委員会質問調査の調査結果について
(資料2-1)並びに(資料2-2)に基づき事務局より説明)

(2) その他について
(資料3)に基づく事務局説明：令和20年までの数値を想定して「今後15年」の必要な学びの数について)

[委員からの主な意見]

【 地方における専門高校の在り方 】

- 人口減の中では、とがった新しい発想を考えていくことが必要と考えている。
- ICT を活用した学科間、学校間連携によって、他校の設備等をバーチャル空間で学ぶといった、新しい連携の仕方を模索してもよいのではないかと。
- 検定を重視した活動がスタンダードではなくなった分、課題解決型の学習が商業科の武器になっている。地域と協力し地域課題を見つけて、仮説をたて、地域の方にアドバイスを受けながら進める。地域への帰属意識を高め地域貢献と学びにつながる。
- 学科間連携するためには物理的な距離が問題で学科間連携を阻んでいる。
- 他県から船員としてきてもらうことも増えている、本来は本高校から輩出すべきだが、なかなかそれを埋められない。仙台、県外からも問い合わせがあるが住む場所がなくて断念するケースもある。住まいの確保、寮などがあれば良い。
- スクールバスも考える。また仙台の学校の生徒が、スクーリングで、専門高校で学ぶなどサテライト校としてみてはどうか。

【 専門高校に期待されている学び 】

- 工業高校の国際化は必要で、世界の事を知る必要がある。
- 福祉現場の人材不足を補うために外国人が入ってきている。今後外国人とのコミュ

ニケーションを取れる力や、介護ロボットを使う力など、いろいろな能力を身につけることが必要になる。

- 教員も地域との交流を図って、今求められている知識や技術を掴んで、学びの中におりこんでいかなければならない。
- 進学者が多くなっている一方、有名企業からの求人も来ている現状がある。
- 農業を、普通科の生徒たちにも経験させられないものだろうか。普通高校に専門学科を溶け込ませる方法なども模索してもいいのかも。
- 資格のため施設側とは密に連携している。福祉は卒業後90%以上就職であり、貢献度は高い。
- 人間の究極の幸せとして、人に愛されること、褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされることが上げられる。社会とつながるコミュニケーション能力は今後必要性を増してくる。

【 専門高校の魅力発信 】

- これまでは仕事に人をあわせる教育をしてきたが、今後は人に仕事を合わせる必要があるのではないかと。教員の働き方も併せて考えていかないと、その後の15年につながっていかないのでは。
- 後輩への口コミは重要で、先輩がいるために遠方からも生徒が入学している。
- 中学校や塾の先生が専門学科の学びを理解していない。理解を促進する必要がある。
- 普通科の中に専門の学びを入れるなどという話は良い
- それぞれの学校で必要とされる人材を育成し、自分の価値を認め、知ることができてきて、自信につながってくる。

【 専門高校の施設設備の整備の在り方 】

- 備品については3～5年のリースにしないと情報化の中ですぐに陳腐化してしまう。

5 その他

(1) 今後の日程について

- ・ 第3回専門委員会 9月27日(金) 午後2時
- ・ 産業教育審議会 10月25日(金)(予定)
- ・ 第4回専門委員会 11月22日(金) 午後2時(予定)

事務局より：次回の会議では、専門高校の学びや在り方について、自由な発想でご意見を更に頂きたい。専門高校の現状やその学びをどう残すべきかについて、現在の基準にとらわれず、「こんな学校があったらいい」という視点でご意見を頂きたい。

6 閉会